

い。東富士演習場の末端を走り、いくつかトンネルを潜りながら愛鷹連峰の裾野を右回りして南面に出る。愛鷹山の真南に位置する所に駿河湾沼津 SA があるが先を急ぐので通過。目の前に駿河湾と伊豆の山が広がるなかなかの景色ではあるが、残念なことに富士山は愛鷹山の後に隠れて見えない。

富士市に入るとコースをかなり北寄りに取るので富士山がより一層近く感じられる。西富士道路と交差する所に新富士 IC がある。ここを頂点にして西南西に針路を変え、富士山は急激に後方に去り、明星山トンネル。小学校の頃に遠足で登った明星山（海拔 224.6m）をトンネルでくぐり抜けるとすぐに富士川を渡る。もう富士山は見えない

大小のトンネルをいくつか繰り返した後、新清水 JCT で東名高速への連結道路を分け、程なくして新静岡 IC になり、快適な新しい高速道路のドライブは終了した。

新静岡 IC は安倍川に沿って走る県道 27 号線（梅ヶ島街道）と交差しており、我々の旅には大変便利である。ここからは川に沿って北上して山に突きあたる所まで行けば良い。

安倍川は川幅が 700m はあろうかと思うような広さだが、水流はその内のごく僅か。左岸は身延山地の末端が始まり、遡るにつれて山が高くなって来る。また右岸は大井川水系との境界をなす幅広い稜線がどっしりと構える。いずれもこの辺りで既に海拔 1000m を超すもので、行く手の景色は谷が迫って山へ押し上げられるような地形を感じる。何百年もしくはそれ以上前から洪水を繰り返したことによると想定できる肥沃そうな農地が広がっている。

鯨ヶ池という池があったが、こんな内陸でなぜ鯨なんだろう？ 俵沢（たわらざわ）・牛妻（うしづま）・賤機（しずはた）味のある地名が続く。

油島（ゆしま）まで来ると川幅は半分位になり、大河内を過ぎるとさらに狭くなり峡谷の様相を呈してきた。道路も所々にすれ違うことが難しい場所があり、頻繁に「クラクションを鳴らせ」の標識が立つようになってきた。

梅ヶ島街道と川の向こう岸の集落とを結ぶ吊り橋がいくつもあり、深い谷を挟んで暮らしてきた人々の歴史が感じられる。

数珠窪トンネルという意味あり気なトンネルを潜っていくつかカーブを抜けると右岸に立派な建物が現れた。「梅ヶ島中学校・小学校」と看板が示している。冬はここまで通うのは大変だろうなと思ったら、宿泊棟のような建物が見えた。

孫佐島の集落を過ぎてしばらくで左に赤水の滝の標識が現れた。駐車場に車を置いて、案内板に従って少し谷川へ下ったところに絶壁の上の展望場所があった。見下ろす安倍川の流れは三段構えの立派な滝。周囲の木々の色づきも相まってなかなかの眺めである。（右上写真：赤水の滝）

滝を後にしてさらに 6~7Km ほど上って行くと 5 軒ほどの宿が立ち並ぶ

梅ヶ島温泉に到着。（右写真）早めに到着したので宿に入るのにはまだ早い、近くを少し歩いて見ることにしたが・・・。

安倍峠への道は 9 月の豪雨で崩壊したとのことで工事中の通行止めで、歩行者の立ち入りも禁止になっている。

行き止まりの駐車場に車を置いて三段の滝を見に行ったが、この道もここで終り。

（左写真：三段の滝）

川の向こう岸にある湯神社を見に行ったが、もうこれ以上に奥へ入る道もない。

見歩くものも特にはないので、少々早めではあるが宿（清香旅館）に入ることにした。（右写真：八紘嶺を望む）

源泉（38 度）の浴槽と沸かした湯の浴槽の二つがある風呂を小一時間かけてじっくり楽しみ、さらに余った時間を利用してテレビで大相撲鑑賞。夕食はメニュー過剰が流行る昨今、地元産のコンニャク・ワサビ・ヤマメ・イノシシ等を中心に適量で良心的なものだった。とりわけ自家製と



思われる美味しい漬物と、静岡らしい美味しいお茶が記憶に残った。近頃、漬物とお茶が美味しい宿は珍しいので。

7時になるともう安倍川の流れの音が響き渡るだけの静寂となり、窓を開けるとブルンと来るような寒さ。二度目の入浴で十分に温まって8時半にはもう寝てしまった。

平成24年11月22日

6時半に起きて恒例の朝風呂。付近の散歩、と言っても、上流は行き止まりだし、下流方面は5分も歩かぬうちに人里が絶えてしまう。谷間の朝は太陽の光の到達が遅い。

チェックアウトは9時頃だったか。宿の近所にあるたった一軒の土産物屋でこんにやくほか数点を購入して昨日上って来た安倍川沿いの道を下山開始。時折山の端から顔を出す太陽がまぶしいが、下って行くにつれて谷幅が広がり、徐々に空が広がって行くのが面白い。

有東木（うとうぎ）という集落への入り口があった。この里はワサビ栽培発祥の地とのことで、ここで始まった後で伊豆の山中に移植されたらしい。後刻参照した地元の情報冊子によると、ワサビ田がまだ元気に活躍していると書いてあった。

相淵の集落に入ると安倍川の対岸（右岸）の山腹に茶畑が目立つようになってきた。県道を走っていると突然バス停の脇に「相淵吊り橋」の看板が現れた。看板には「同時に渡れる人数は10人まで」と注意書きが書いてある。広くなり始めた川幅の向こう側の集落の上部に茶畑が広がり、海拔1000mを越す尾根の中腹にまで延びている。車を停めておけるようなスペースがあるので、向こう岸の探検を試みることにした。

鉄骨とワイヤロープで組まれた吊り橋の足場は杉板、いたるところにある隙間から河川敷が見える。100歩ほど進むと、前を歩くかみさんの歩幅と合わないために発生する不規則な揺れが足元を狂わせるようになってきた。



下を見ると青白い色の水流と河原の石ころや砂が鮮やかに見え、我々二人が歩いている姿が影になって映し出されている。やがて大きくなった振幅が少しずつ小さくなって、中央部を過ぎたことを知らせてくれた。岸がどんどん近付いてくる安心感から歩くテンポも若干ゆっくり目になって来る。

到達した「向こう岸」は狭い上陸地点のすぐ脇に水路が流れて、その水路に沿って坂道が上っている。見上げると道の両側の石垣の上は農家と茶畑が坂道の傾斜に合わせるように並んで上っている。

さらに上を見上げると、遙か上の方の樹林帯との境界まで濃い緑色の小さな起伏すなわち茶畑が続いているのが見えた。石垣の所々に作業用のモノレールの線路が敷かれ、車両が休んでいる。

戻る時は余裕ができたせいか、丁寧に歩数を数えて見た。適当に歩幅を想定して暗算で計算して見たら、橋の長さは200~300mはあると出た。車に戻って地元の情報冊子を見たら「相淵の吊り橋は長さ264.2m」と書いてあった。

渡（ど）という集落があった。長野県の山には谷の深まった所に、沢渡・奈川渡・赤石渡・北又渡など「XX渡」という地名が多い。この辺りは今では川幅もだいぶ広がってゆったりした河川の風景になっているが、昔は峡谷だったが、度重なる洪水によって川幅が広がり川床も上がって現在の地形になったのかもしれない。油島で中河内川を合わせた後は安倍川の川幅は三倍ほどに広がり、小さな流れを合わせる度にさらに広がって平野に近いことを知らせてくれる。先程まで晴れていた空は雲に覆われ始め、寒々しい景色になってきた。このまま安倍川紀行を続けると静岡市の町中の交通ラッシュに巻き込まれてしまうので、国道1号線バイパスを渡ってしばらく進んだあたりで安倍川紀行は終わりにして、次の目的地日本平へ向かうことにした。

国道1号線と東海道線を渡って海側に移り、日本平パークウェイへ。

日本平は海辺に構える海拔200~300m、山裾は東西8Km・南北4Km位の大きな山群。久能山・有度山などいくつものピークがあるので車で走ると登ったり下ったりになる。山群の中には運動公園・動物園・ゴルフ場など様々な施設があるようだ。

日本平の山頂は駿河湾の向こうに富士山・愛鷹山・伊豆半島の山々などが見える最高の場所だが、残念なこ



とに富士山は首を雲の中に突っ込み始めている。辛うじて何枚かシャッターチャンスをいただき退却。(左写真：日本平からの富士) 清水日本平パークウェイを下って駿河湾沿いの国道 150 号線 (久能街道) に出、ひたすら海沿いに焼津を目指して南行。

河口にかかる南安倍川橋で安倍川を渡ると、先程まで見たのとは全く異なる巨大な川幅に僅かばかりの水流の川に化けていた。

限りなく海岸に近いルートを選ぶ目的で、丸子川を渡ってから国道から離れて用宗港方面へ。用宗駅を過ぎると少しずつ南にカーブして、やがて海岸線に出た。と言うよりも、満観峰から下りて来る大きな稜線の突き出しに押し出されたような感じと言う方が正しいかもしれない。左は駿河湾、右の山の中を東海道線と東名高速道路の日本坂トンネルが通っているはずだ。トンネルの真上にある 449.2m の三角点がある頂まで平面距離で 1.5Km ほどしかない。つまり 3/10 の勾配の稜線が迫る山と深く口を開ける駿河湾に挟まれた海岸線と言うことになる。その境目の僅かなスペースに作られた道路、地震・津波と考えると恐ろしい。このような地形は富士川の西側から清水までの間にも見られる。海岸線に「大崩海岸」と書いた看板が見えた、なるほど。

瀬戸川を渡ると再び平野に入り、焼津の町になった。極力海沿いのルートを取って漁港に向かった。

平日の午後でいささか閑散としている漁港をぶらついて土産物を物色。近頃はツアー客の誘致が命題のよう



で、土産物を扱った食堂や土産物屋は殆どが高速道路の IC に便利な場所になってしまったようだ。地元の案内図とカーナビゲーションを頼りに何軒か巡って見た。やや遅めの昼食を済ませて焼津 IC から東名高速道路に入り、清水から往路同様新東名高速道路経由で帰った。夕暮れに近い駿河湾の富士の色づきに期待したが、やや曇りかげんで霞んでいた。御殿場を過ぎて富士が後方に去るようになると、にわかに関が迫り始めた。

以上

◆番外篇 (面白いけれど少し怖い話)

往路復路ともに新東名自動車道を使ってみた。前述のように景色が良い上に滑らかな舗装道路で走っているととても気持ち良かった。高速道路はカーナビゲーションの指示に注目する必要もなく、ただ走るだけなので気が楽だ。

裾野を過ぎたころだっただろうか、「次を右折せよ」の指示が聞こえた。不思議に思いつつも気にもせず走っていると、「左後方に曲がれ」、しばらくするとまた「左に曲がれ」。その内に「ただ今ルートを計算中です」。ここで我に返ってナビゲーションの画面をチラリと見て気が付いた。

我々の車は道のない所を走っていて、ナビゲーションの色が付いた道案内の表示は、上下左右に頻繁に曲がりながら山を越えて梅ヶ島温泉を目指すようになっていた。

そうだ、我が車のカーナビゲーションシステムにはまだ新東名自動車道が反映されていなかった。GPS で位置確認をしているため道のない所を彷徨い、辛うじて道の上に来るとそこからルートを探し出して計算して案内を続ける。案内をしているのにこの車はまた道を外れて走ってしまうので、またこれを繰り返す。

かわいそうに、ナビゲーションのソフトは御殿場を過ぎて以降ずっと探索と計算を繰り返しながら運転者にルート情報を提供し続けてくれていたのだ。

高速道路をボーっとして運転している人に突然「右に曲がれ」と言ってしまうと、中には反射的に行動に出てしまう人がいるかもしれない。アクセルとブレーキを間違える人がいたり、高速道路を逆走したりする人がいる昨今、少々恐い感じがした。

せめて、「当システムではこのルートの案内はできません」とメッセージを出す位は必要かもしれない。

近日中に新しい地図情報を反映したバージョンに更新しなければいけない。